

## 桃園地域座談会ニュース vol.3

平成 29 年 9 月 29 日、第 3 回「座談会」を開催しました。

3 回目の座談会となり、これまで以上にリラックスした空気の中、

- ・以前からこの座談会で「ちょっと気にかけておきたい方がいる」とお互いに情報共有できていたため、その方が救急車で運ばれた際も素早く連絡を取り合って対応することができたケース
- ・「自宅で最期まで過ごしたい」という介護が必要な高齢ご夫妻の思いや生活を、介護サービス・家族・ご近所さんが協力して支えているケースなどを報告・共有をしました。



「マンションの人は把握しにくい」  
「空き家も増えているし、野良猫の問題も」  
「高齢の方に外に出てきてもらえるように工夫している」  
「声かけしながら変わりないか様子を確認」  
「若い人にも関心をもってもらえれば」  
などの意見もあがりました。

こうした共有の積み重ねが、気づきの目・見守りの目を増やしていくことにもつながっていると感じています。

.....  
また、前回からテーマにあがっていた「地域全体で認知症の知識・理解を深める」取り組みとして、『声かけ訓練』を実施することになりました。

帰り道がわからなくなっているおばあちゃんと通りかかったご近所さんに成りきって、寸劇で「声かけの仕方」の例を紹介しました。  
おどろかせないように、前から、ゆっくりと声かけします。



『声かけ訓練』とは、道に迷ったり買物ができなかつたりで困っている高齢者の役と、それに気づいて声をかける役に分かれて、実際に「声かけ」の場面を模擬体験するものです。どのように声かけをすればいいのかを学んだ後、地域に出かけて歩き、困っている高齢者役を見かけたら声をかけます。

まずは座談会のメンバーで取り組んでみることにになりますが、これをきっかけに少しずつ、認知症の知識・理解や見守りの輪が地域全体に広がっていくことを願っています。